

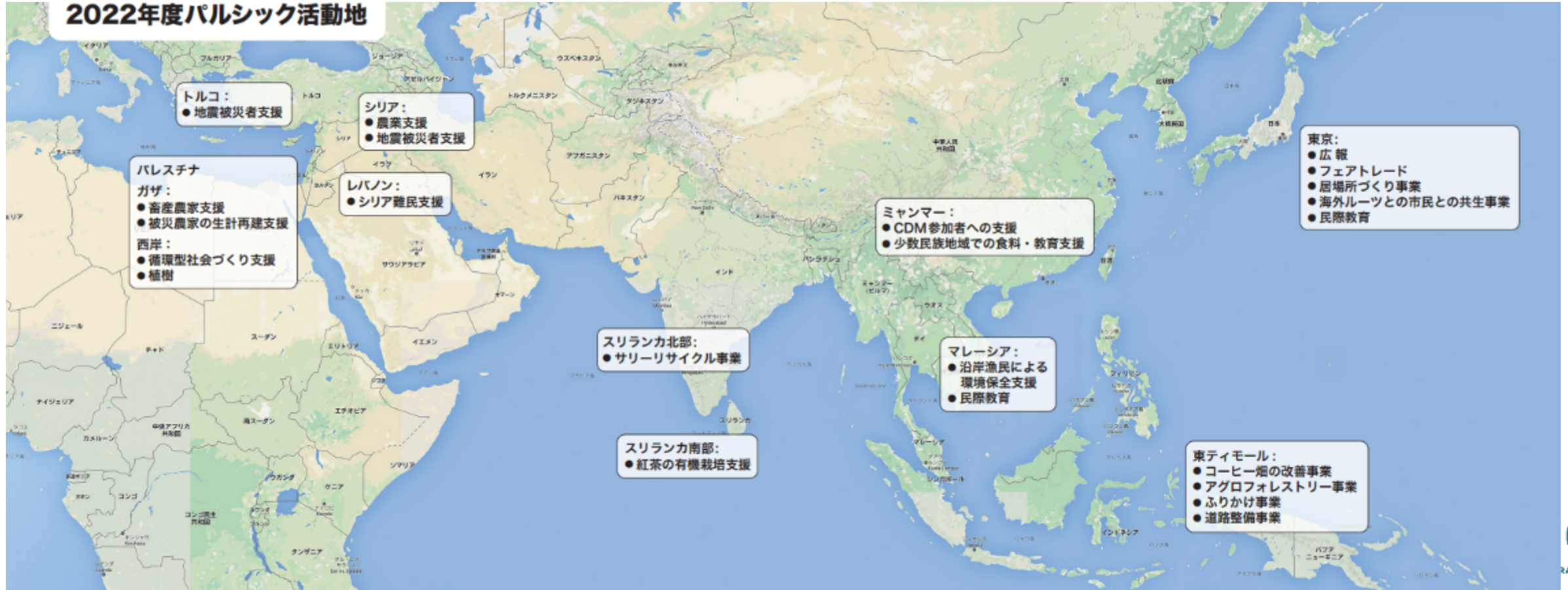
みんなかふえ・多世代の 居場所づくり事業

特定非営利活動法人パルシック

パルシックの全体事業、年間予算紹介

民際協力とフェアトレードを行うNGO（9か国で活動中）

R4年間予算：（団体）509,642,105円、（みんかふえ）7,650,230円



みんなかふえについて



「経済的な貧困」x「関係性の貧困」に取り組むため
2018年、東京都葛飾区にコミュニティカフェ「みんなかふえ」を開設



捉えている「問題」「課題」

- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、**人と繋がる機会**が減り孤立する人が増えている。
- 葛飾区は、都内でも**高齢化率**が高い。
生活保護受給世帯数は**10,704戸**（保護率**29.5%**）と、他の地域に比べ高い水準にある。近年は**在留外国人**など他地域からの転入も増えている。
- 地域コミュニティの弱体化が進む中、地域の誰もが交流を通じて声を掛け合える「**支えあいのネットワーク**」を生成していく必要性が高まっている。

なぜ海外協力NGOが国内の居場所づくりに取り組むのか？

日本の子どもの相対的貧困率：13.5%（2018年）に衝撃を受ける

東ティモールは、**相互扶助**の精神が強く誰かが子どもの面倒を見てくれる。子どもがお腹を空かすことはない。

■日本の地域の抱える問題

既存の福祉制度では対応しにくい「**制度のギャップ**」

もともと制度の希薄な国で、**人同士の関係**の中でニーズが見いだされ解決されるアプローチが大事



取り組んだ助成事業の紹介

当該事業予算：4,545,000円
助成金額：350,000円

コミュニティカフェ & 学習支援



週3回（月・火・金）13：00～17：00 合計117回開催し、のべ556人参加

取り組んだ助成事業の紹介

子ども食堂（みんなかふえ食堂）



平日の夜 17：00～18：30 合計17回開催し、のべ85人が参加した。

取り組んだ助成事業の紹介

交流イベント



月に1回程、合計8回イベントを開催し、のべ121人参加した。

助成事業の成果

- 人と人が繋がる機会の回復・拡大期にあたり、コロナ禍の緊急支援からの移行に取り組むことができた。
- 葛飾区内で常設の居場所は珍しく、「みんなかふえに行けば誰かに会える」という**安心感**を住民に与えることができた。
- 活動を通じて多くのボランティアが参加し広がりが見えた。



今後の取り組みとこれからの展望あるいは新たな課題

- ボランティアは育成されてきたが、メンバーが固定化し、パルシック職員のイニシアティブに依存する側面が大きい
- カフェの利用者が少ない⇒「みんなかふえ」の地域における**認知度**をさらに高める
- 在留外国人と日本人は同じ地域に住んでいても接触する機会がほとんどない⇒**異文化交流イベント**の開催
- 助成金への依存度を小さくしていくことは最大の運営課題⇒みんなかふえ運営の一部を**収益化**